

表4 観光消費額単価（単位：円/人）

区分	項目	県外客		
		平成23年	平成22年	増減額
日帰	交通費	1,129	1,381	▲252
	飲食代	1,550	1,548	2
	土産代	3,306	3,145	161
	計	5,985	6,074	▲89
宿泊	宿泊費	12,696	13,206	▲510
	交通費	3,190	3,426	▲236
	飲食代	3,139	3,141	▲2
	土産代	5,826	5,379	447
	計	24,851	25,152	▲301

（出典：鳥取県文化観光局観光政策課「H23年観光客入込動態調査結果」）

表4に示した平成23年の観光消費額単価と来訪者数をもとに鳥取県内での消費額を算出した。表5に結果を示す。

表5 オロチ来訪者による鳥取県内での消費額

	日帰り	宿泊	合計
宿泊費	-	¥9,661,656	¥9,661,656
交通費	¥859,169	¥2,427,590	¥3,286,759
飲食費	¥1,179,550	¥2,388,779	¥3,568,329
土産代等	¥2,515,866	¥4,433,586	¥6,949,452
合計	¥4,554,585	¥18,911,611	¥23,466,196

オロチ訪問者による鳥取県内での消費額は平成20年から平成24年にかけて、総額で約2346万円と見積られる。

#### 4.4. 直接波及効果の算出

4.1.、4.2.、4.3. で算出した需要額（消費額）のうち、その金額すべてが鳥取県内への需要となっているわけではない。オロチの売上高については、それ自体がオロチへの需要であるため、鳥取県内に生じた需要として計上することができる。しかし、たとえばオロチが購入した生産設備については、県内で製造された機械ではないものが多い。また、オロチを訪れた県外客が鳥取県内で購入した商品が必ずしも鳥取県で作られたものではないことも考えられる。つまり、以上に挙げたうち4.1.、4.3. の需要額には、他地域から移入して賄われたものが含まれている。そこで鳥取県に生じた正味の需要を求める必要がある。

2005年鳥取県産業連関表（36部門）の自給率および表1、表2、表5の推計結果をもとに直接波及効果（生産誘発額および粗付加価値額）を算出した。この際、購入者価格には運送コストや販売コストが含まれているため、商業部門および運輸部門のマージン率によって、各部門への最終需要額から商業部門および運輸部門への需要分を割り振った。またオロチの売上高についても